

# 福祉文教常任委員会 参考資料

令和8年5月12日

中学校給食について

---

## 資 料

---

中学校給食導入に向けたアンケート調査の結果について・・・・・・・・・・ 1～2

中学校給食アンケート調査結果に基づく分析報告について・・・・・・・・・・ 3～4

議会事務局

## 中学校給食導入に向けたアンケート調査の結果について

### 1 調査の目的

生徒の心身の健全な発達と、子育て世代の保護者の負担軽減の達成を目指し、今後の中学校給食の提供に向けた取組みを進めることを目的に調査するものです。併せて現在実施している「希望注文制弁当（ラボ弁当）」の利用状況とニーズを分析し、給食実現までの暫定措置の改善策を検討するものです。

### 2 実施期間

令和8年2月2日（月）から令和8年2月20日（金）

### 3 対象者及び回答数

対象者	対象数（人）	回答数（件）	回答率
小学生（5・6年生）	481	394	81.9%
中学生（1・2年生）	486	431	88.7%
小学生保護者（5・6年）	481	430	89.4%
中学生保護者（1・2年生）	486	495	100%
教職員（小学生・中学生）	143	115	80.4%
合計	2,077	1,865	89.79%

※中学生保護者の回答は両親からの回答があり、中学生の対象者数以上になっている。

### 4 調査結果の概要

- （1）全体を通じて、中学校給食の実施に対する期待は高く、特に保護者からは9割を超える方から実施を希望する旨の回答があり、対象者からの回答で共通しているのは、「温かくておいしい食事」の提供であった。
- （2）「希望注文制弁当（ラボ弁当）」については、価格・量・注文の利便性などの課題があるため、弁当を選択しているという実態が確認できた。
- （3）「小学校給食」の質を基準とし、中学校でも同等以上の質を維持する「中学校給食」を早期に実施を求める意見が多い。
- （4）「中学校給食」実施までの「希望注文制弁当（ラボ弁当）」について、「子どもが好むメニューではない」、「料金が高い」、「数日前までの予約が手間」の利用を阻む3大要因が確認できた。

## 5 各対象の傾向

### (1) 児童・生徒（小学生・中学生）

期待することは、児童・生徒とも温かくておいしいごはんが8割を超えている。

小学生の傾向は、現在の小学校給食に対する満足度が高く「中学校でも小学校のような給食を食べたい」という意見が多い。

中学生の傾向は、給食の「量が少ない」ことに関する意見が多い。

### (2) 保護者

小学生の保護者の95.6%、中学生の保護者の90.3%が「実施してほしい」と回答。

意見としては「早期実施」、「お弁当作りの負担軽減」、「栄養バランス・食中毒対策」の意見が多い。

「希望注文制弁当（ラボ弁当）」については、「子どもが好むメニューではない」、「料金が高い」、「数日前までの予約が手間」といった点が、利用を阻む3大要因となっている。

### (3) 教職員

過去の経緯を踏まえ、持続可能で安定した中学校給食の供給体制の構築、実施を求める意見が多い。

## 中学校給食アンケート調査結果に基づく分析報告について

### 1. 中学校給食の必要性について

今回のアンケート調査に寄せられた声には、「15年前から話がある」「こどもが0歳の頃から議論されているのに、もう中学卒業を控えている」といった、長年の停滞に対する厳しい指摘が目立ちました。実施の遅れは、他の地方公共団体が次々と完全給食を実施する中で、大磯町が「取り残されている」という感覚を強めています。

その一方で、寄せられた回答の中に「みんなで楽しく美味しくご飯を食べたい」や「なるべく早く中学校給食を実現してほしい」という、「ようやく具体的に動き出したことへの強い期待」も示されています。保護者、生徒、教職員の三者が一致して「中学校給食」を待ち望んでいる現状が確認できました。

「中学校給食」の実現は、教育環境を整えるために必要不可欠です。具体的なアンケート結果は以下のとおりです。

### 2. アンケート結果が示す数値について

項目	調査結果（割合）
中学校保護者の給食実施希望	90.3%
給食に期待すること：温かく栄養バランスの取れた食事	保護者：86.6% / 教職員：82.0% / 生徒：89.8%
給食に期待すること：毎日のお弁当作りの負担軽減	保護者：87.0%

「90.3%」が給食実施を希望しており、保護者の約9割、生徒の約9割が「温かい給食」を望んでいる結果が示されました。

### 3. 早期実施を求める理由について

自由意見から抽出した課題を分析すると、早期実施が必要な理由は以下の3つの理由に集約されます。

#### (1) 地域格差の是正と食の平等

他の地方公共団体が中学校給食を実施している中、大磯町だけが未実施であることは、子どもたちの間に「格差」が生じています。給食は、家庭環境に左右されず、すべての生徒に栄養バランスの取れた温かい食事を保障する「セーフティネット」です。中学生からは「小学校のような美味しい給食をまた食べたい」という純粋な声上がる一方、現場の教職員からは、育ち盛りの生徒たちに「教育の一環としての栄養保障」が必要であるという強い指摘がありました。

## (2) 安全・安心の確保と「現行制度の限界」

現在、代替策として提供されている「希望制注文弁当（ラボ弁当）」は、利用率が中学生保護者の回答では、7.1%に留まっています。保護者や教職員からは「チャージシステムの手間」や「数日前までの予約制」といった利便性の低さが指摘されています。

## (3) 社会環境への適応と「スピード」の重視

共働き世帯が当たり前の社会構造に変化する中、早朝からのお弁当作りは保護者にとって負担になっています。特出すべき点は、多くの保護者が「オーガニック等のこだわりよりも、まずはスピードとボリュームを優先してほしい」と述べている点です。「理想を追求して実施が遅れるくらいなら、標準的な内容で一日も早く始めてほしい」という切実な声が上がっています。また、実施に際しては「昼食時間が15分から20分と短すぎる」という指摘も踏まえ、しっかりと食べる時間の確保も検討する必要があります。

## 4. スケジュールについて

年月	内容
令和8年2月	アンケート調査の実施 令和8年2月2日から2月20日
令和8年3月	アンケート調査の集計・分析
令和8年4月	教育委員会定例会 アンケート調査の結果について説明
令和8年5月	福祉文教常任委員会 アンケート調査の結果、今後のスケジュールについて説明
令和8年6月	中学校給食検討会 アンケート調査結果の説明
令和8年8月	中学校給食検討会 方針（案）検討
令和8年10月	中学校給食検討会 方針（案）決定・事業実施
令和8年10月	教育委員会定例会 方針の決定
令和8年11月	政策会議 方針の決定
令和8年11月	福祉文教常任委員会協議会 方針の説明
令和8年12月	方針に基づき実施